

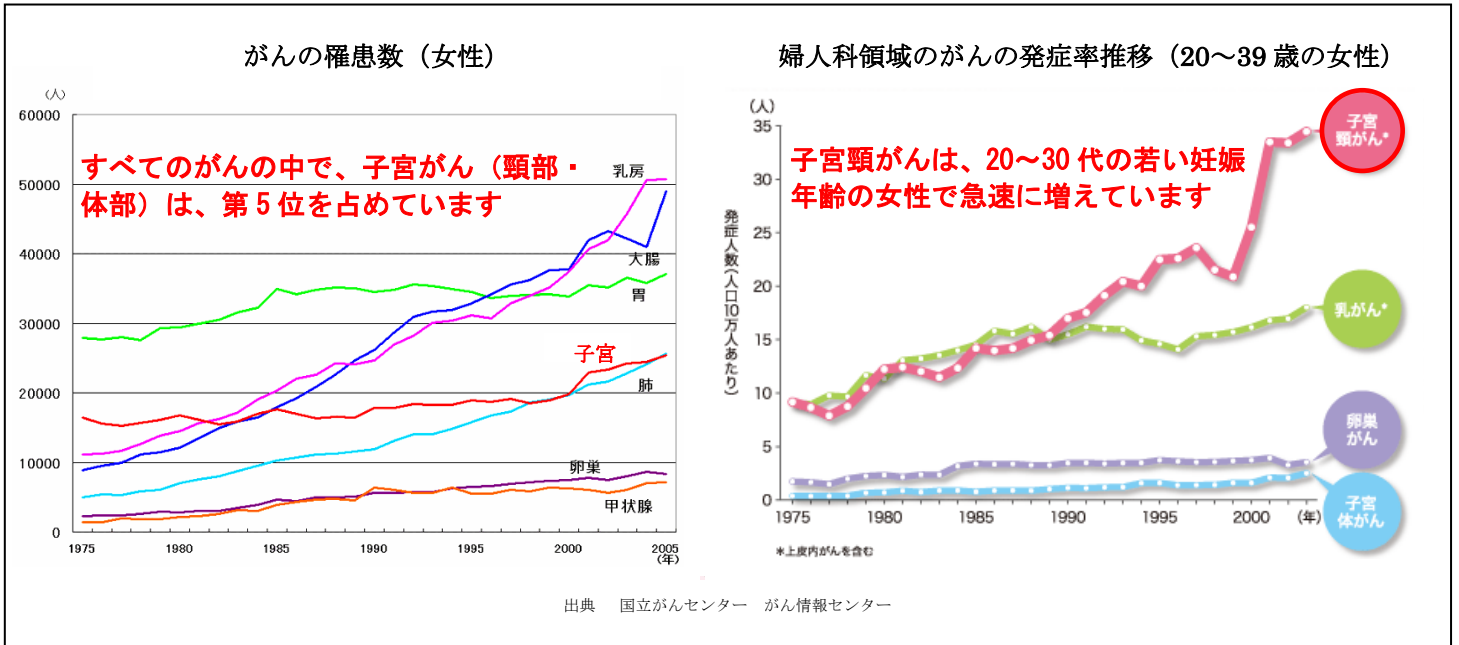


財団法人早期胃癌検診協会

# News Letter

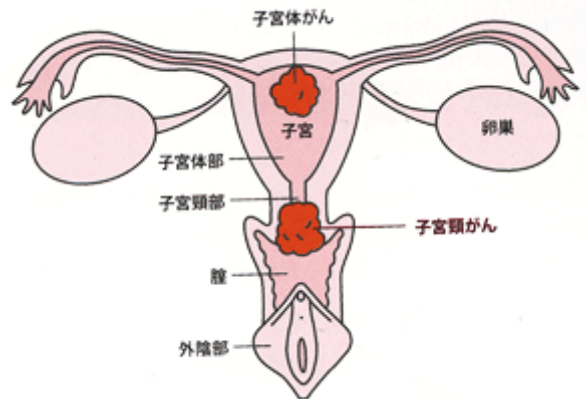
第4版：発行日 平成22年12月8日

## 子宮頸がんは、若い女性で急速に増えています



### 子宮頸がんとは

子宮頸がんは、子宮の入口付近の子宮頸部にできるがんで、婦人科のがんの中では乳がんに次いで発症率が高く、最近では、20～30代の女性での発症率が高いがんです。初期の段階ではほとんどが無症状です。予防接種と子宮がん検診を併せて行うことで、罹患防止、早期発見ができるといわれています。



子宮頸がんの部位

### ▶ 子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルスの感染が原因です

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が原因です。HPVは皮膚や粘膜に存在するごくありふれたウイルスで、性経験のある人なら誰もが感染します。また、ウイルスは100種類以上が存在し、そのうち、がんを発生させるウイルス（発がん性HPV）は13種類程度です。この発がん性HPVに感染しても、90%以上は体内から自然に排除されるため、がんに移行することはありませんが、HPVは一度排除されても繰り返し感染するといわれています。

## 子宮頸がん

### ▶ 子宮頸がんはワクチンで予防できます(10歳以上の女性が接種対象です。)

がんを発生させるウイルスのうち70%~80%を占める16型と18型HPVの抗体をつくるワクチンを性経験がないうちに接種すると、16型・18型HPVをほぼ100%防ぐことができます。ワクチンは、半年の間に計3回接種することで、十分効果が得られます。

ワクチンが普及すれば、子宮頸がんは激減すると期待されています。

## 子宮頸がんは、唯一、予防ができるがんです

### ▶ 子宮頸がんの診断方法

#### 1. 細胞診

子宮頸部表面の一部の細胞を採取し、顕微鏡でがん細胞の有無を検査します。

#### 2. 組織診

子宮頸部の一部を採取し顕微鏡で検査します。細胞診の結果と組織検査と異なる場合もあり、最終的には細胞診と組織検査の結果から総合的に診断します。

#### 3. コルポ診

子宮頸部粘膜表面を拡大鏡で拡大し、詳細に観察する診断法をコルポ診と呼んでいます。組織診の組織を採取する際に欠かせません。

### ▶ ワクチンを接種していても、検診は必要です

子宮頸がん予防ワクチンだけでは、すべての発がん性HPVを防ぐことはできません。このため、20歳になったら子宮がん検診を受けることが必要です。子宮頸がん予防ワクチンと子宮がん検診を併せて行うことで、ほぼ防ぐことができます。

**ワクチンを接種しても、20歳を過ぎたら、  
毎年、子宮頸がん検診を受けましょう！**

### ▶ 子宮頸がん予防の基本

1. 検診と予防ワクチンが、予防の2つの柱！
2. 検診は有用性が高いので、継続を！
3. 予防ワクチンは、一番効果がある中学生での接種を！

当協会でも、予防ワクチンの接種ができます。(予約制)

料金：3回セット税込 58,800円(1回目 21,000円、2回目 18,900円、3回目 18,900円)

「子宮頸がんの予防ワクチン接種」や「子宮がん検診」のご予約やご相談は、  
医事課 (Tel.03-3668-6800) へご連絡ください。



今後もニュースレターを発行し、皆様の健康管理に少しでも参考になればと思います。ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。

今後ともよろしくお願いいたします。

財団法人早期胃癌検診協会 事務局

Tel.03-3668-6801 / E-mail: mail@soiken.or.jp